

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800333		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家 西舞子		
所在地	神戸市垂水区西舞子7-30-16		
自己評価作成日	令和元年12月9日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	令和2年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

たのしい家の名の通り、毎日がただ過ぎていくのではなく、お散歩や行事などを取り混ぜて、とにかく楽しく、生活を送っていただくことに努めています。
 職員の手作りの食事は、美味しさと温かさで、とてもご満足いただいている様です。
 毎日来て下さるご家族様がレクなどして下さる日もあり、家で一緒に過ごしている雰囲気もあります。
 ご家族様と常に連携を取り、ご家族様とともに生活を支えていく事を目指し実現できている事が、とても嬉しいことです。そうすることで、さびしさを感じることなく、グループホームでの生活を安定的に楽しんでいただく事が出来ている様に思います。
 研修も充実していますが、職員が自主的にたのしい雰囲気作りをしている事も何よりの特徴です。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

瀬戸内海を眺望する閑静な住宅街に位置し、居室から明石海峡大橋が望める。入居者は真新しい、明るく清潔に保たれた施設で職員との共同生活を楽しんでいる。食事には、予定献立表とレシピ付きの食材が届けられ、職員と共に調理する。検査で同じ食事を摂る職員、弁当持参の職員と同じテーブルで食事を摂る。天気の良い日には入居者も、それぞれと帽子をかぶって準備をし、連れだって瀬戸内海を望むいつもの散歩道を近くの古墳公園まで歩く。入居者は、職員が準備する四季折々の行事と料理を楽しむ。正月はお節で祝い、初詣に出掛けた。ひな祭りは雛人形を作り、ちらし寿司を頬張った。春には庭園で土いじりをして芋の苗を植え付け、秋には敬老会で抹茶と饅頭をいただき、芋掘りをして収穫を楽しんだ。クリスマス会は家族参加で職員の演ずる劇を観賞した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

グループホームたのしい家西舞子

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアやパソコンの見出しに常に掲げており、全員が常に周知出来るようにしている。	会社概要に法人の経営理念を掲載して職員、入居者及び家族に示し、ホームページにも掲載している。業務用パソコンのスタート画面に経営理念が絶えず流れている。事業所玄関には法人理念を現場で実践すべきケアに置き換えた共通の施設理念を掲示している。	法人の経営理念を踏まえ地域密着型サービスの意義と役割を考えながら、事業所が目指すサービスのあり方を端的に示す独自の理念を作り上げることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に散歩に出かけるとご近所の方々とすれ違う機会もあり、挨拶を交わす等の交流を続けています。 地域においては、訪問美容や行事の時のお弁当を利用させていただいています。	自治会長が運営推進会議のメンバーであり、地域の情報を得ている。あんしんすこやかセンターの活動には積極的に参加して関係事業者と交流している。事業所行事に必要な食料を近くの商店から調達したり、訪問美容に地域的美容院を起用している。	入居者が地域とつながりながら当たり前前の暮らしを続けられる環境を維持するため、事業所が近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流の場に積極的に参加していくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域では認知症専門のグループホームとして地域にて3年が過ぎ、認知症施設としての位置づけが出来ている様に思われます。地域ケア会議に参加し、認知症の方々の生活を知っていただく機会を作っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事やサービス内容を活動報告させていただき、要望などを受け付け、サービス向上に努めている。	奇数月の第2土曜日が定例開催日である。入居者及び複数の家族、自治会長、あんしんすこやかセンター職員、同業事業所職員等がメンバーである。入居者の状況、事業所の活動状況を報告し助言等を得る。議事録は家族にも郵送している。	家族アンケート結果、第三者評価結果及び目標達成計画を報告して助言を得る等、第三者評価と運営推進会議とを一連の仕組みとして捉えて運用されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の連絡会や地域ケア会議への参加により、情報を頂いたり、意見交換を行っている。	舞子台あんしんすこやかセンター職員と連携をとっている。報告対象となる事故等は神戸市に適正に報告し、その他は記録を保管している。新型コロナウイルス対応に係る感染症対策はファックス情報を基に神戸市に問い合わせを行う等して対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束研修を全員が受けると共に、研修報告書を提出することにより、理解度を高めている。 ご家族様に何度も説明し、身体拘束の解除に向けて取り組んでいる。	本所で研修を受けた管理者が研修用資料を用いて事業所職員全員に伝達研修を行い、研修記録の提出を求める。別に、運営推進会議メンバーで開催する身体拘束適正化委員会で身体拘束が疑われる事例について議論して、経過等を当該家族に報告している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修を全員が受けると共に、研修報告書を提出することにより、理解を高めている。細かい事への気遣いを話し合い、お客様ファーストに努めている	身体拘束防止と併せて研修を行い、同様に研修記録の提出を求めている。今年度は入居者への声掛けをテーマに実際に起こった事例を題材にして議論を交わし、言葉、口調に気配りして丁寧な接遇を心掛けると共に、職員同士が互いに注意し合うよう話し合った。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を全員が受けると共に、研修報告書を提出することで理解を深めている。	本社で研修を受講した管理者による伝達研修を毎年行い、研修記録の提出を求めている。入居者に成年後見制度利用者はいないが、その重要性は認識しており、あんしんすこやかセンター職員との連携を大切にしている。生活保護の受給者が2人いる。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	誤解がないように、丁寧に時間をかけて説明をしている。 場合によっては本社からの上司の説明もさせていただいている。	契約時は家族等に、マネージャーと管理者が利用契約書、重要事項説明書等に併せ、重度化対応・終末期ケアの対応に係る指針を丁寧に説明し、緊急時の対応について意向を確認している。また必要時の相互協力を約束している。法人の経営理念を説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に管理者は、利用者とは話す機会を設けられるように、事務所とリビングはつながっており、話しかけやすいようになっている。家族様が来られた時話しやすいように玄関通路の窓を開けている。	運営推進会議に複数の家族が参加し意見等を述べる。玄関横の事務室の窓を常時開けており、家族が来所の際には管理者は努めて会話を交わす。クリスマス会は家族参加で行った。家族の意見を踏まえてホームページのブログの顔写真にボカシを入れた。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務所がバリアフリーなのか入りやすいのか、要望としてシフトのことや勤務時間のこと、私的なことなども常に話に来ている為、答えやすい環境が出来ている。物品購入等も倉庫管理の希望があり反映している。	毎月のフロア会議と全体会議で職員の意見等を集約している。また、職員が個別に訴えてくる意見等も重視している。意見で、消耗品の購入時期を見直し、一定程度の在庫を持つようにした。夜勤の時間帯を見直し30分、出社、退社を遅らせた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが、希望の働き方を相談し、シフトにのせていくことが出来ている。 誰伸び制度やキャリア段位制度がある為、希望に応じた働き方を選択できるようになっている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1か月研修、6か月研修、リーダー研修、管理者研修も充実している為、個々の状況を段階において育成するシステムがある。資格試験の研修参加の休暇もとれるように支援している。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では様々な事業所があり、介護職や料理部の職員が入社時研修等で交流を深める事もできます。認知症実践者研修や外部団体研修の支援もあり、サービスの向上に繋がっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	男性が苦手な方には、トイレ介助等を女性職員で対応、空腹の不安定さには、補食もあり、利用者のニーズに合った、生活を安定的に確保している。傾聴し、何でも話せる環境を作っている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安な表情でお越しの際は、傾聴し話しやすい雰囲気づくりに努めています。12月に管理者として勤務し始めてからは初期の関係性として傾聴に心がけ、色々なお話を伺うことが出来ています。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた家族様とのお話で、地域密着型の施設を説明させていただき、まず初めに何処に手続きに行くのかを説明させて頂いたり、遠方の父母の施設選びや在宅支援の説明などをさせていただきました。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自宅のように自ら進んで調理や洗い物をされるなど、お願いせずに自立に寄り添う、または頼ることもある関係性が構築されています。職員のフォローをして下さる方もおられ、助け合って1日を暮らしています。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	困ったときはお互い様、家族でなければわからない事もあるので、何かと相談することがあります。ご家族様と共に考え悩める介助を目標にしています。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との繋がりや、外出などもご本人の意思があれば、支援させていただきます。なじみの喫茶店、なじみの地域等もドライブや外出に出かけます。	友達や家族が訪問し易い事業所を心掛けています。友達の訪問は必要に応じて家族の了解をとり、同席することもある。家族との外出や外食は積極的に支援する。年末年始の外泊も勧める。家族、知り合いへ出す葉書づくり、投函を支援した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に受け入れ合える関係を築ける様に、職員は間に入り、支援しています。時には奥様の様に、時には子供のように、みんなで支える人の暮らしを支援させていただいております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着型サービスは、ご近所付き合いが主で、道を歩けばお知り合いです。幼馴染のご家族様の関係などもあり、退所後も出会う機会もあります。いつでも相談に来てもらえる気軽さを作り続けます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に身近にいる職員は、面会時の家族様との会話や、利用者のつぶやきに耳を傾けています。記録に残し、検討会議などで話し合い、ご本人の希望を受け止めて、より良い生活を送れるように考え努めています。	入居前の暮らしぶりを家族や関係者から聞きとり、検討して本人の希望や意向に沿えるように努めている。職員は気づいたことを記録して、カンファレンスを行っている。意思疎通が困難な方には日々の関わりの中で表情や行動から汲みとるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	船長さんや武家の出の方、高知から若いころに出てこられた方、食べ物の好みや分量等様々な感性を忘れずに今に繋げる事が出来る様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	散歩に行きたい、パズルがしたい、屋内散歩を毎日更新する。洗い物や洗濯たたみ。毎日家族様が来られて、レクリエーションをしたり、お茶の時間を取って楽しみを作る方等々日々を過ごしながら、把握している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーや計画作成が現状把握に必要な情報を、直接介護を行う中でくみ取り、医師・歯科・訪問看護師・職員・家族様と話し合いご本人に適した介護計画を都度作成し、実践に繋げている。	短期目標は6カ月、長期目標は1年で設定している。体調の変化や本人、家族の要望の変化に応じて臨機応変に対応し、毎月のモニタリングを参考に医師や関係者と話し合っ介護計画を見直している。職員は入居者ができることを継続するようサポートしている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、管理日誌を共有し、申し送りにて職員間の連絡を密にすることで、日々気づきや変化に生かし、対応している。往診時にあらかじめの報告や、現状を伝える用紙も作成し、情報共有にも使っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	落ち着かれない方への対応として、可能な限り職員で対応しているが、家族様と連携を図り、面会に来ていただく事で、落ち着きを取り戻すことができた。 個別の外出を企画。等		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近く古墳への散歩に行き、そこから見える明石海峡大橋を眺めることで、地元の豊かさを感じる。地域博物館にて昔の道具展を見に行く等生きてきた足跡や、暮らしを楽しむ事も支援する。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設訪問医療・訪問看護・訪問歯科の連携を図り、受信に行けないご家族様の希望要望に応えている。認知症専門の医療機関に受診の方もいる。緊急時は病院・医療センターと連携している。	契約時に、かかりつけ医を往診のある協力医院とする入居者が多い。入院が必要となった場合に、病院の紹介や診療情報提供等の支援を受けることができる。専門外来には家族が同行するが、緊急やむを得ない場合は職員が付き添うこともあり家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護：週2回、往診：毎日来所の看護師と週1回。何かあればすぐに電話が出来る環境にあり、看護師にもDrにもすぐ答えてもらえる為、受診も看護も受ける事が出来る。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診のDrとも日々連携を図り、関係機関への連絡をしていただいていると共に、病院の相談員との連携も図り、入院・退院時のカンファレンスを行い連携を図っている。	入院時には本人の記録を持参して同行し、経過や病歴などを提供している。入院中は早期に退院できるよう病院の相談員と連携する。退院時のカンファレンスに出席し、医師の指示、家族の意向に沿ってスムーズに事業所の生活に戻れるよう準備している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての指針やいざというときの家族様の考えを入所時からお聞かせいただいています。入院や退院時、Drからの検査結果の共有等をお伝えさせていただき、家族様の気持ちをささえるべく支援している。	契約時に「重度化対応・終末期ケア対応に関わる指針」を説明して本人や家族の気持ちを確認して同意を得ている。容態変化の度に確認を繰り返し、主治医が看取り期と判断した時には家族、関係者が話し合い、尊厳のある最期を迎えられるよう支援を行う。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル作成をし、緊急対応時はそれに準じ対応をしている。連絡系統の充実もあり、即時の対応にて、誤嚥者を救出した経緯もある。事故研鑽もやっている為、実践できている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、常に対応できるように準備をしている。避難場所の確認など、研修をして、周知している。 自治会長とも連携を図り協力体制を築いている。	年に2回、避難訓練を行う。2階の入居者は非常口からベランダに出て非常階段を下りて玄関前に集合し、1階の入居者と合流して点呼し、完了した。非常災害時の対応の研修を管理者が受け、全職員に伝達している。衛生用品は2、3日分備蓄している。	消防訓練に消防署の出動を要請し、地域住民にも参加を呼びかけて一緒に訓練を行ってはいかがでしょうか。備蓄品は水、食料品、薬などを含め、再度見直しをされることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉がけに努め、個室での生活空間もありプライバシーに配慮している。入浴やトイレ等もその方の気持ちに寄り添い、時間や日にちの変更をするなど、ご自身の人格を尊重し、対応をしている。	管理者は本社で接遇マナー研修を受け、事業所職員に伝達研修を行う。一人ひとりの動きや表情から察して、トイレ誘導が必要と感じた時は、周りを意識した声掛けとさりげないケアをするよう配慮している。居室に入る前には必ず声をかけて許可を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のつぶやかれたひとことに耳を傾け、合わない方との同席を改善し、安定的な生活を送れるように支援している。「外に出たい」という声には、時間を問わず、散歩なども出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時に入眠される方にも、時間を変更して提供したり、栄養価を考慮することがあります。手作りならではの提供ではないでしょうか。塗り絵、パズルがお好きな方、運動、ゆっくり居室で過ごす方、様々です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で服を選ばれて、朝のモーニングケアを見守り介助させていただきます。くしを使い、鏡を見ていただき、整えます。その日によってスカーフや小物などもご自身でアレンジされる方もおられます。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲がなくても、お好み焼きなら食べられる方に、職員の手作りお好み焼きを提供。盛り付けや、調理を一緒にする方。毎日のメニューを書道で書いてくださる方もいます。進んで洗い物をする方もいてくださいます。	宅配食材会社から1日の献立表とレシピ付きの食材が届けられる。昼食と夕食は入居者と一緒に調理する。出来上がった料理は入居者と検食担当の職員が食べ、弁当持参の職員も一緒に食事する。お節料理やひな祭りのちらし寿司も一緒に調理して楽しんだ。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を定期的に提供、記録、自由に飲めるお茶も置いています。定食メニューでバランスの良い食事提供があります。エンシュアなどの提供もDr指示にて提供しています。スポーツドリンクも入浴後提供。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行います。個々の能力に合わせて、職員が見守り声掛け～全介助まで行います。また、訪問歯科による、口腔内のチェックや口腔ケアも、週に2回あります。その時、指導もしていただけます。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間使用パットと日中の使用パットを変えることで、パット使用量の軽減につなげています。日中はご自身での立ち上がりが見られた時と定期的にご案内させて頂き、枚数の軽減、自立に向けた支援を心がけています。	排泄チェック表を使用し、時間を見計らって声をかけている。それとなく動き方や様子から察して、トイレで排泄ができるよう支援している。パットのサイズによる使い分けやリハビリパンツの使用などは一人ひとりに合わせるよう職員間で検討している。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がちな方には、下剤をお持ちでなくても、牛乳や乳製品を召し上がって頂ける環境を作っています。日常的な運動として室内散歩や体操なども行います。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はその時の体調に応じて行いますので不定期です。曜日を決め心待ちにされている入居者様には、ご希望の曜日・時間を合わせています。入浴の声掛けに拒否された方は、午後に変更もしています。	一人ひとりのその日の体調や気分に合わせて声をかけている。歌をうたったり、昔の話をしながら楽しいひと時を過ごせるように努めている。介護度の高い方には職員が2人で介助している。冬至には職員宅に実った柚子を浮かべて柚子湯を楽しんだ。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転もその方の自由睡眠を受け入れていきます。昼寝もご自身でされている場合は、食事時間を合わせる事もあります。夜間眠れずに、ずっとおしゃべりされる方もいらっしゃいます。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安定剤が必要な方なども経過観察を行い、効果の是非の記録を重ね、受信時に報告、医師との連携を図っています。降圧剤の使用の方も個々の血圧状況に合った頓服使用をDrの支持通り行います。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズル、塗り絵、居室でテレビを見て過ごす、家事、おしゃべり等、好みは様々です、毎日家族様が来られて、一緒に皆さんとレクリエーションをして下さる方、それぞれの支援をしています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「今年も初詣に行きたいわ」と仰る方には、10日恵比寿に皆さんで出かけたり、面会のご家族様が外出に協力的で、よく、出掛けられます。施設でも外食の機会などもあります。	1日に1回は玄関から出て近所や古墳のある公園あたりまで散歩する。家族と同伴で食堂や喫茶店に出かける方もいる。帽子をかぶって出かけるそぶりが見えた方には、ついて出ている。庭に芋を植え、収穫もできた。初詣は数人ずつに分かれてお参りした。	家族アンケートでは、外出の「頻度が少ない」、「出かけているのかどうかかわからない」という評価ですが、ブログだけでなく多様な手段で、散歩の様子などを家族に伝える工夫をされることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではありませんが、ご家族様がご本人にお渡しのお財布をお持ちの方もおられます。初詣のお賽銭など、そこからご自身で出されます。預り金もありますので、ご希望時にはお渡しして、お買い物に行きます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や、ご家族様からのお手紙はご本人にお渡ししています。手紙を出したいときはいつでも支援させていただきます。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、常に衛生を保つように努めています。TV、音楽環境に留意しています。季節折々の手作りの壁面飾りが、四季を感じるように工夫。温度も都度快適温度に変更していきます。等、配慮に努めています。	掃除は毎日職員と一緒にしている。手作りの雛飾りや百人一首の絵札、水仙の貼り絵などが、リビングの壁や階段にきれいに飾られ季節を感じさせる。習字の得意な方が書いた献立表があり生活感もある。居心地のよい空間づくりに気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由席の環境です、席替えも行います。館内が広いので、少し離れた場所に椅子を設けていますので、一人の時間も空間もとれます。将棋もお好きな方同士で自由にされています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具もカーテンも布団カバーも個人持ちで、部屋はそれぞれ違う空間になっています。居心地は良いようです。お茶をもって居室に入られて過ごされる方もおられます。香りも違います。	カーテンは一人ひとりに選んでもらい、各室その人らしい雰囲気が伝わっている。使い慣れたテーブルや椅子、チェストや仏壇のある部屋もある。畳を敷いたり、観葉植物を並べて自宅での暮らしを継続して居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理や盛り付けも自ら手伝って下さる方やテーブル吹きをして下さる方、洗濯をたたむ方、座ってお盆を拭いてくださる方、出来ることはそれぞれ違いますが、安全に気を付けていただいています。		